

教師同士が 相談し合える関係を！

神戸市教育委員会事務局指導主事

吉岡 拓也



よしおか たくや 「委ねる、つなげる、挑戦する」これが私のモットーです。今は、子どもたち、そして先生たちから学ぶ毎日を楽しんでいます。

「〇〇〇〇を大切にしましょう」

最近、あるニュースを見ました。二〇二二年は値上げの年になりそうだと。食パン、コーヒー、小麦粉、電気・ガス

料金、コピー用紙…。驚きました。コピー用紙も値上がりしたようです。二〇二二年は、紙（アナログ）からICT（デジタル）へと、今まで以上に置き換わる年になるかもしれません。

そんな中で、GIGAスクール構想も二年目に突入です。

私は、GIGAスクール担当の指導主事として、たくさん学校の訪問しています。令和三年四月から数えると、一〇〇回を超えています。その中で、子どもや先生たちの姿から、私が学ばせていただいたことがあります。その学びの一つを、次のように表現してみました。

GIGAスクール構想の推進には、
〇〇〇〇が欠かせない！

この「〇〇〇〇」には、平仮名四文字の言葉が入ります。何だと思いませんか。

私は、「つながり」だと学ばせていただきました。例えば授業では、次のようなつながりがあります。

- ・子どもと子ども
- ・子どもと教師
- ・子どもと教科の学び
- ・前時の学びと本時の学び
- ・教室と家庭
- ・学校と学校外の世界

このように、授業でICTを活用する際に、いろいろなつながりを活かすことができます。

そしてGIGAスクール構想の推進にあたり、何より大切にしたいのが教師と教師のつながりです。

GIGAについての 困り感に寄り添うために

では、つながりをどう活かすことができるでしょうか。神戸の小学校の実践を



2年目が始まります！

GIGAスクール構想も、いよいよ2年目がスタートします。

では、ここでクイズです。GIGAスクール構想の「GIGA」の意味は、次の2つのどちらでしょう。

- ① Global and Innovation Gateway for All
- ② Good Idea and Great Action

②もおもしろいですが、正解は①です。私が考えるポイントは、この「All」です。GIGAスクール構想は、すべての子どもだけでなく、すべての先生のためのものでもあるのです。

そんな中で、先生たちから次のような悩みを聞きました。

- 「どう活用すればいいか。」
- 「まず何をすればいいか。」
- 「具体的な実践を知りたい。」



まだまだ始まったばかりで、いろいろうまくいかないこともあるかもしれません。だからこそ、この通信では、先生たちの考えや悩み、素敵な実践をたくさん共有していきます。

Good Idea and Great Action
な通信を目指していきます。
よろしく願いいたします。



困り感に寄り添うために

神戸の小学校の実践を紹介します。職員室の黒板には、次のようなものが掲示されていました。



先生たちは「GIGA黒板」と呼んでいるようです。GIGAの活用方法を紙に書いて掲示し、終わったクラスは○をつけていました。この「GIGA黒板」の目的は、次のとおりです。

次にやることを共有し、先生たちの困り感を「見える化」するため。

このように、先生同士もお互いの困り感に寄り添うことが大事になります。そのためには、普段の職員室で困ったことをお互いに聴き合える関係性が欠かせません。

GIGAスクール構想の推進を支える同僚性の構築を目指していきましょう。

質問やお悩みは右のコードへ
感想もお待ちしております！



紹介します。

職員室に入って、驚きました。職員室の一面の黒板のことです。通称「GIGA黒板」と言われるものができていました（前ページの写真参照）。

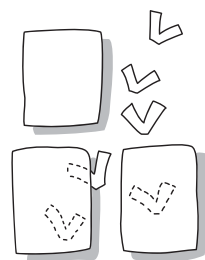
ICTの活用方法を紙に書いて、この黒板にたくさん掲示していました。いくつかの項目を紹介します。

- ・子どもたちが端末のカメラ機能を使って、写真を撮る。
- ・子どもたちが、協働学習ツールを使ってファイルを提出する。

このような項目に対して、終わったクラスの先生は○をつけていきます。すると、まだそのツールを活用できていないクラスが明確になります。

このやり方をまねしてください、というわけではありません。もし、同じようなことを、読者の皆さまの学校でやってみるとどうでしょうか。

ひよつとすると、〇〇先生になるかもしれません。「また、〇〇先生のクラ



スが遅いね」と言うだけで終わってしまいう可能性もあります。

しかし、この小学校はそうではありません。

「〇〇先生が困っているから、みんなでサポートしよう」

と〇〇きょうどうできていたようなので

す。校長先生は、次のようにおっしゃっていました。

「ICTが得意でない先生にも、『次に何をやったらいいか』がわかるようにしています。本校では、GIGAが始まったことで、職員の協力態勢もさらに強くなりました」

校長先生がおっしゃることの意味がよくわかりました。教師同士、非常に仲がよいのです。普段から職員室で、授業づくりや学級経営の悩みを相談しあっているようです。

だからこそ、GIGAについての困り感を「見える化」することで、みんなで支え合うことができていました。やはり、教師同士のつながりが欠かせません。

● 寄り添った連載を目指して

この「みんなでつくる『GIGAスクール通信』」の連載についても、実は同じ思いを持っています。

たくさん先生や子どもの困り感に寄り添って、実践を共有して、一緒に考えていく。

これが私の思いです。この連載を通して、一人でも多くの先生の、そして子どもたちの、お役に立てばうれしいです。一年間、よろしくお願いたします。